

トンネル本体 I 期工事説明会（第 3 回） 開催結果

1. 開催日程

日 時	場 所
令和 6 年 11 月 24 日（日） 14 時～	野川小学校
令和 6 年 11 月 28 日（木） 19 時～	梶ヶ谷小学校
令和 6 年 11 月 30 日（土） 14 時～	久末小学校

2. 結果概要

- これまでの工事進捗状況、今後の工事内容及び安心・安全な施工のための取組について、資料 1 により説明した。

- 説明後の質疑応答の要旨は、以下のとおり。

【 計画 】

Q1：本工事が令和 9 年度に完成し、運用を開始するのはいつ頃か。

A1：令和 9 年度以降に流入施設や電気・機械設備等の工事を行い、令和 12 年度に矢上川領域の運用を開始する予定です。

【 工事 】

Q2：土砂の運搬に使用するダンプトラックは、1 台当たりの CO₂ 排出量がどのくらいか。

A2：確認し、後日回答します。

〔確認結果〕

ダンプトラック (10t) 1 台当たりの CO₂ 排出量は、1 日約 0.153t-CO₂ です。（環境省「温室効果ガス算出量算定・報告マニュアル」により算出）

Q3：今年、川崎市内では、光化学スモッグ注意報が 9 回発令されているが、本工事ではダンプトラックの運搬等の規制は行わないのか。

A3：工事の進行を調整、中止すること等によるダンプトラックの運搬等の規制は行いません。

Q4：資機材や土砂の運搬を、現場付近の JR 貨物梶ヶ谷ターミナル駅を利用した鉄道輸送とすることで、CO₂ や NO_x の削減ができないか。

A4：本工事では掘削土砂の全量をダンプトラックで運搬しますが、車両監視システムによる渋滞対策、低公害車の使用やアイドリングストップに取り組み、地球温暖化対策に努めます。

Q5：本工事の土砂の搬出ルートは、川崎市浮島処分場までにどのようなルートを通すのか。

A5：尻手黒川道路や都筑インターから第三京浜道路を利用するルートを想定しています。

Q6：トンネルが河川の地下を掘進する場合、河川部ではどのように地表面測定を行うのか。また、どのような機械で測定するのか。

A6：トンネルの直上が河川の場合は、護岸天端部及び河川管理用通路と隣接する民地との境界で、それぞれ河川の両岸2箇所ずつ計4箇所で測定します。また、レベルという測量機械を用いて測定します。

Q7：騒音・振動は起こるのか。

A7：騒音・振動がまったく生じないとは言えません。そのため、最大限対策に努めます。

Q8：工事期間中、市営野川東住宅の敷地内に工事関係者が立ち入ることがあるか。

A8：地表面や振動の測定及び地表面の監視のため、工事関係者が敷地内に立ち入ることがあります。

〔追記〕

測定や監視にあたっては、腕章などを付けて工事関係者であることがわかるようにします。

【 家屋調査 】

Q9：事前調査を実施していない家屋等について、所有者自身で工事前に写真を撮影する場合、どのような写真を撮っておけば、事後調査で参考になるのか。

A9：確認し、後日回答します。

〔確認結果〕

まず、ご自身で撮影した写真は、事後調査の際に参考にさせていただきますが、事前調査と同等の扱いはできません。仮にご自身で撮影する場合は、撮影日、撮影日時点の建物等の状態及びすでに発生している損傷の規模や状況等がわかるようご注意ください。

なお、事前調査を行っていない家屋等でも、万が一、工事の影響で損傷があったと思われる場合は、川崎治水センターにご連絡ください。

【 リニア関連 】

Q10：本工事とリニア工事のトンネルルートは、どのように交差するのか。

A10：本工事のトンネルは、発進立坑から約170m掘進したところで、リニア工事のトンネルと交差します。また、本工事のトンネルは、地表から深さ約25mに位置し、リニア工事のトンネルは、その下方約20mに位置します。

Q11：前回の説明会では、リニア工事と本工事が交差する部分について、リニア工事が先に掘進し、本工事が後から掘進するという説明だったが、現在も変更ないか。

A11：掘進する順序は本工事が先、リニア工事が後に変更となる見込みです。

Q12：当初に比べて、事業費が高騰しているのはどのような原因があるのか。また、事業期間が遅れているのは、リニア工事の影響か。

A12：事業費については、公共工事設計労務者単価と資機材等の高騰が主な理由です。また、事業期間については、リニア工事の影響で遅れているということではなく、本工事と流入施設工事の施工時期を精査した結果等が主な理由です。

Q13：本工事とリニア工事において、どちらかが原因で地盤変動等が生じた場合、どのように判断するのか。

A13：それぞれが掘進中に測定したデータ等を分析し、総合的に判断します。

【 II期工事（有馬川領域） 】

Q14：II期工事では、I期工事と同様の作業ヤードが中間立坑周辺に整備されるのか。

A14：II期工事では、I期工事の作業ヤードと同程度の工事設備を中間立坑周辺に整備します。

Q15：中間立坑周辺にも、発進立坑周辺のように細長い用地が確保できているのか。

A15：中間立坑周辺では、工事に必要な設備環境を十分に整えられる用地を確保できています。

Q16 : 中間立坑から発生する土砂は、久末小学校の下の道路を通過して、尻手黒川道路に出ていくのか。

A16 : II期工事の土砂搬出方法は未定ですが、尻手黒川道路までの運搬については、ダンプトラックによる運搬を含め、複数の手段を検討しています。

【 その他 】

Q17 : 武蔵野南線の高架橋下と尻手黒川道路の交差部がアンダーパスになっていて、大雨が降ると、矢上川が溢れる前にアンダーパス箇所が冠水してしまう。川崎市には、ぜひ本工事に合わせて対処するよう検討してほしい。

A17 : 一時的なゲリラ豪雨等の冠水は生じる可能性がありますが、引き続き、現地を注視してまいります。（川崎市）

Q18 : 尻手黒川道路は現在でも騒音・振動が多いが、土砂の搬出となるとより心配になるので、本工事に合わせて道路の整備もしてほしい。

A18 : 道路の騒音や振動などが気になる場合は、ご連絡ください。（川崎市）